

Rafiki 通信

2026年9月30日

第13号 大下 泰治

Mambo! タンザニアでは少しずつ雨が増えてきて、そろそろ本格的に小雨期に入と思います。どうやら今年は、「エルニーニョ現象」の影響で、例年よりも雨が多くなることが予想されているみたいです。

(※エルニーニョ: 太平洋の赤道付近の海水温が平年より高くなる現象)

そして、私が日本を出国してからついに1年が経過しました。「え、まだ折り返し?」って感じもありますが、残り1年、意外とすぐに過ぎてしまうのかなと思っています。悔いないように、生活していきます。

配属先の学校では、9月中旬に1週間の休みがありました。その期間を利用して、念願の「ザンジバル」に行ってきました。日本から後輩が遊びに来てくれて、充実した休暇を過ごすことができました。

今回は、そんなザンジバルの旅の様子や学校での活動などについてご紹介していきます。

「アフリカの楽園」・ザンジバルへ!

ザンジバルは、タンザニア本土の東にあるインド洋の島です。美しいビーチが広がり、世界中から観光客が訪れる人気のリゾート地です。一方で、かつてはインド洋交易や奴隷貿易の拠点として栄え、今もその歴史を感じる街並みも残っています。



鎖に繋がれた人々を表した像

ストーンタウン

ザンジバルの歴史的な中心地。インド・アラブなどの文化の影響を受けた特徴的な扉(右の写真)や奴隷博物館など、街を歩くだけで、ザンジバルの歴史や文化を感じることができました。タンザニア本土とはまた違った雰囲気があり、タンザニアの新たな一面を知ることができたと思います。



ウロジョ

ザンジバルの伝統的なスープ。いろんな具材が入っておいしかったです。



Ngalawa[ンガワラ]でのセーリング

タンザニアの伝統的なカヌーに乗って、海に出ました。天気が悪かったですが、虹も見ることができて満足です。



The Rock

海の中の岩の上に建てられた有名なレストラン。

*写真は満潮時。

テストに向けて!

学校では、9月9日・10日に国家試験が行われました。このテストの対象は7年生で、合格しなければ中学校に進むことはできません。そのため、7年生の子どもたちは、8月末から学校で寝泊まりをし、これまで以上に勉強に励んでいました。毎日、いろんな先生が授業をしたり、過去問のような問題を解かせたりしていました。この1年見てきた中で、1番子どもと向き合っている瞬間だったなと思います。

7年生の子どもたちは、空き教室にマットレスを敷いて寝ていました。全員分のマットレスがあるわけではなく、1つのマットレスに何人もの子どもが寝ているという状態でした。食事は、毎日3食、近所の人が作りに来てくれていました。決して十分とは言えない環境の中でも、中学校へ進むことを目指して、必死に勉強に取り組んでいました。

結果は、11月に分かるみたいです。7年生のみんなが無事に合格していることを願っています。

ザンジバルの小学校との交流会

私の配属先の小学校と協力隊員がいるザンジバルの小学校とで、オンライン交流を行いました。交流内容は、お互いの学校や地域について紹介し合う、というもの。タンザニア国内について子どもにたちにもっと知ってもらふこと、そして子どもたちが活躍できる場を作りたいという目的で行いました。

子どもに提案した際、「**やりたい!**」という声がたくさん上がりました。ただ、子どもたちにとって、自分の住んでいる地域・学校について誰かに紹介する経験は初めてのこと。空き時間に集まって、準備を進め、ワクワクしながらも、少しの不安を抱えたまま本番の日を迎えました。

そして、いざ本番。…正直、全然うまくいきませんでした。電波の問題や「もっと子どもと一緒に準備していたら…」と、私自身の反省点もありました。それでも、たくさんの子どもの笑顔を見ることができ、「**またやりたい!**」という声を聞くことができました。今回、実際にやってみたからこそ分かったことをたくさんあります。私にとっても、子どもにとってもいい経験になったかなと思います。**必ず、リベンジします!**



使う教室をみんなで掃除



ザンジバルの話を聞いている



ムソガについて紹介中!

タンザニアで1年間生活してみても...

この1年を振り返ってみて、いろんなことを考えさせられた1年だったと思います。どうしても最初は、日本での自分の価値観を基準に物事を考えてしまい、「なんでなん?」って思うことばかりでした。でも少しずつ、「自分とは違う考え方・やり方があるんや。」と考えられるようになりました。そう考えることで、気持ちも楽になり、生活・活動に前向きになることができたと思います。いろんな人と出会い、これまで知らなかった様々な価値観に触れてきた経験が、今の自分をつくっていると思います。

正直、「帰りたいな」と思うことはありますが、ここに来て後悔していることは1つもありません。来てみないと・やってみないと分からないことだらけだなと思います。残り1年もとにかく経験していきます!